

講義名	教養特講Ⅰ（7つの習慣入門）		
科目区分	教養特講		
担当教員	西尾 範博		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>スティーン・R・コヴィー著『7つの習慣』をもとに7つの習慣について学び、次の7点について理解を深め、日常生活で実践し身につけるきっかけを提供したい。</p> <p>①主体性を発揮して物事に対処する、②目的をもって日々を過ごす、③重要事項を優先する、④Win-Winの人間関係を構築する、⑤まず相手を理解するよう努め、その後で自分を理解してもらうようにする、⑥違いを認めあい相乗効果を発揮するコミュニケーションをとりあう、⑦肉体的、社会情緒的、知的、精神的側面という4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の再生再生を図ること</p> <p>このうち①～③を身につけることにより依存的な人間から自立した人間に、④～⑥を身につけることにより自立した人間同士による相互依存的な関係を築くことのできる人間に成長するとされている。</p> <p>社会人になる前の4年間を過ごす大学生にとって有意義な学びとなることを目指したい。</p>

到達目標
<p>(1) 第1から第7までの習慣を理解し、日常生活で実践するきっかけを得る</p> <p>(2) 主体性を発揮して自主・自立の精神を身につける</p> <p>(3) 自ら目的・目標をもって物事に取り組むことができる</p> <p>(4) 物事に優先順位をつけて効果的な時間管理を行うとともに重要かつ非緊急な事項を着実に実行することができる</p> <p>(5) 日常生活において、自分の考えや気持ちを伝える勇気もち、他人の考えや気持ちを尊重してコミュニケーションを円滑にとることができる</p> <p>(6) 人間の4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の再生再生を図ることができる</p>

提出課題
<p>毎回の授業の最後に示す課題に関するレポートの作成と提出を求める。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>毎回の授業の最後に示す課題に関するレポートの内容を踏まえた話を次の授業時間の冒頭におこない、講評または解説を行ってフィードバックするとともに、前回の主題に関する理解を深め、次の新しい主題に取り組む基礎となるようにする。</p>

評価の基準
<p>毎回の課題レポートをもとに総合的に評価する。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>担当教員の指示に従って真面目に取り組むこと。</p>

教科書
<p>・使用しない。</p>

プリント資料及び参考文献
<p>授業中に随時プリント資料を配布し、参考文献を紹介する。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「7つの習慣」の全体概念と主要概念① 2. 「7つの習慣」の主要概念② 3. 「7つの習慣」の主要概念③ 4. 「7つの習慣」の主要概念④ 5. 第1の習慣「主体性をもつ」 6. 第2の習慣「目的をもって始める」 7. 第3の習慣「重要事項を優先する」 8. 第3の習慣「重要事項を優先する」 9. 前半のまとめ（課題） 10. 第4の習慣「Win-Winを考える」 11. 第5の習慣「重要事項を優先する」 11. 第6の習慣「相乗効果を発揮する」 13. 第7の習慣「刃を研ぐ」 14. 後半のまとめ（課題） 15. 全体のまとめ（課題）

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>○ ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>毎回の授業で配布された学修用教材資料を読み返して2時間かけて復習し、また毎回、授業の終わりに提示する課題に関するレポート作成を2時間かけてしておくことをもって次の授業の予習とする。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>授業内容を理解するだけでなく日常生活において実践しながら学ぶということの連続となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げて、学生と教員の間での双方向性を確保しながら進め、その過程で到達目標が一つずつ達成されることが期待される。</p>

実務経験の有無及び活用

備考
<p>毎回の授業から多くのことを学ぼうとする意欲のみならず、学んだことを自らの日常生活において実践し、役立てようとする姿勢が強く求められる。</p>